

11 イヌワシ生息地の森林環境保全整備事業箇所における 生息環境改善の試み（中間報告）

東信森林管理署 森林技術指導官 木内 重明
株式会社 環境アセスメントセンター ○水上 貴博

1. 課題を取り上げた背景

イヌワシは主に本州の山岳地帯に生息する大型の猛禽類で、全国での推定生息数は500羽程度と少なく、近年での繁殖成功率は20%以下に落ち込むなど絶滅の危機に瀕しています。

その希少性から、環境省 RDB では絶滅危惧 I B 類、長野県 RL では絶滅危惧 I A 類に指定され、東信森林管理署では、管内に生息するイヌワシを対象とした保護管理事業をこれまで継続的に実施してきました。

本発表では、近年の保護管理事業として、営巣環境と採餌環境の2方面から行った生息環境改善策の試みに関する中間報告をさせていただきます。

2. 取組の経過

①営巣環境の改善

- ・ 巣 1：樹林帯の中に位置し、周辺の樹木の成長により今後イヌワシの出入りが困難になると想定されたため、巻き枯らし施業（樹皮の環状剥離）により樹木の成長を抑止する対策を講じました。
- ・ 巣 2：補修（巣内に堆積した巣材と繁茂した植物の除去）後の利用状況について、携帯電波を利用した通信機能付き自動撮影カメラを用いることで巣の利用状況を確認しました。



イヌワシ



巻き枯らし施業



自動撮影カメラ

②採餌環境の改善

自然草地や人工林の成長に伴う開放地の減少に伴い、イヌワシにとって好適な採餌環境が減少しています。そこで、採餌環境適地と国有林班を照合し、採餌環境として効果的な施業候補地を抽出しました。

3. 実行結果

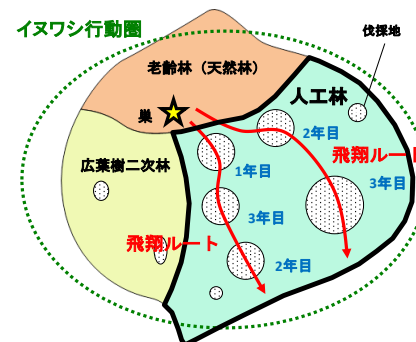
①営巣環境の改善

- ・ 巣 1：施業実施後3年目にその効果が認められました。施業木の半数で枯死を確認し、残りの施業木でも枯死が進行していました。
- ・ 巣 2：残念ながらイヌワシによる巣の利用には至りませんでした。現地での直接観察に比べ高頻度かつ詳細に巣内の変化を確認できることが分かりました。

②採餌環境の改善

過去の飛翔状況調査によるイヌワシの行動記録と国有林班を GIS 上で重ね合わせ、採餌環境改善効果が期待される林班を抽出しました。

- ・ 条件 1) 過去に狩場であったが、現在は樹木の成長等により利用されていない立地。
- ・ 条件 2) できるだけ巣から近い立地。もしくは、巣から遠くてもイヌワシがよく利用する飛翔ルート上の立地。



採餌環境創出イメージ

4. 考察

①営巣環境の改善

巣 1, 2ともイヌワシの利用状況を今後も継続してモニタリングし、対策の効果を検証していきます。

②採餌環境の改善

解析結果を元に、実際に施業可能な林班を検討していきます。また、施業前後でイヌワシの採餌行動を記録し、施業効果を検証していきます。